

# 道に拓く未来の人民。労働者。真に

## 日刊労働者千葉

79.12.6  
No. 293

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
〔鉄電〕二二五八・九・公衆電話(22)七二〇七

一二月一日〜二日の動労千葉第三回定期大会にむけた職場討論の素材として、本号では「反合・三里塚ジェット闘争」の主として「労農連帯・ジェット闘争の意義」の面に光をあてて見たい。

### 労働運動の右傾化に抗して

今日、「労働運動の右傾化」は、急激に進行しています。高度経済成長のもとで、総体として日本労働運動は長らく、「労働運動＝経済的要求運動」という一面の図式に切り縮められた傾向の下で指導されてきました。

そのような一面的な「労働運動」のもとでは、未組織・下請・中小の労働者や公害で苦しむ農・漁民・住民などは「切り捨て」られ忘れ去られてきました。

たとえば、「抗議に來た公害病患者を工場からたたき出す労働者」(チッ素など)の姿を見てもなく「労働者を意識的にも組織的にも分断して支配する」という資本の側の政策に敗北し、「企業が生きのびるために」労働者の首切りに賛成したり、「日本経済の危機を救うために」国策に卒先協力する「労働組合ならざる労働組合」まで出てきているのが現状です。

このような路線(指導方針)の誤りと敗北を、さらに資本の側へ身をすり寄せ、闘わない労働組合に歩調を合せて結集し「話し合い」で問題を解決できるかの様に宣伝するのが、「労働戦線の右翼的統一」の動向であり、このような方針で労働者の未来が守れるはずもないことははっきりしています。

変質せる動労「本部」の「三里塚敵対」「貨物安定宣言路線」こそ、その典型です。

### 組織労働者の階級的責務

資本主義社会における労働者階級とは本来、資本主義社会の矛盾をまっ先に受け、犠牲を強制される存在です。

従って、労働者が「矛盾と犠牲の押し付け」に抗して闘いに決起すれば全人民的闘いに発展するのです。しかし、日本労働運動の現状が必ずしもそうならないのは、労働者とりわけ組織労働者が矛盾や犠牲を「自分より弱い者」や、「アジア・半植民地の人民」などに押しつけ「自分だけよければよい」という方針(路線)ですりぬける指導の下に放置されてきたからに外なりません。

動労千葉の三里塚・ジェット闘争は、大企業のため「列島改造計画」の犠牲にされることを拒否して立ち上った三里塚農民に連帯し、日本労働

3大会集  
大会特集  
80年「反合・三里塚」方針

運動のこのような限界をつき破って戦闘的にたて直す展望をもって闘われたが故に、広範かつ重層的な闘う支援・連帯が実現され、真の労農連帯・社会変革への突破口を切り拓くことも可能となったのです。

### 展望開いた「労農連帯」と「二波のスト」

三里塚へジェット燃料を運ぶということは、農民の闘いに敵対する行為であると同時に、われわれ国鉄労働者自身にとっても、合理化促進、運転保安無視等々、許すことのできない「矛盾と犠牲の強要」であることを原点にすえて、われわれはこの間闘ってきました。

共通の矛盾の中で苦しむ全ての階層の人々と、共に闘える基盤をはっきりと見極め、路線を提起し、先頭に立って闘う義務は、はっきりと労働者とりわけ組織労働者の側にあります。それが「労働者の階級的責務」なのです。

われわれはこれまでも、全力を尽して三里塚・ジェットを闘ってきましたが、「これで充分だ」「階級的責務を果し切った」といえる地平に達したとはまだ言えません。三里塚農民の長期にわたる強靱な闘いに学んで、もっと自らを鍛え、究極の勝利へと前進すべき局面を迎えているといえます。「二波のスト」貫徹に象徴されるわが動労千葉の闘いは、いよいよ「二期粉碎・備蓄ゼロから実力降港へ」の可能性・現実性をはっきりと引きよせた段階だと言えます。

### 労働運動の原則をうち立てる

#### 「反合・三里塚ジェット」方針

われわれは原則的に闘うことを通して、ひとりでも多くの労働者、ひとつでも多くの労働組合が「三里塚」を闘える情勢を開拓し、労農連帯を深め、「二波のスト貫徹」の地平を更に広く、高くおし上げ、右翼的労働戦線統一を阻止し、戦闘的労働運動の再生をかちとるために、更に前進しなければなりません。

動労千葉がこの闘いの方針を「反合・三里塚ジェット闘争」と位置づけ、「八〇年代を勝利する路線」をかけて闘ってきたのは、以上の理由にもとづくものです。第三回大会で更に深化させ、前進しましょう。

「つづく」